

## 2016年度 個人特別研究費 研究成果報告書

所属・職・氏名：文学部・教授・小野久江

研究課題：若年者の自殺予防とストレスコーピング能力向上法の検討

研究期間：2016年4月1日～2017年3月31日

研究成果概要（2,000字程度）

**【研究の背景と目的】** 若年層の自殺死亡率の減少率は全年齢に比べ低く、死因の第1位を自殺が占めている<sup>1)</sup>。さらに、若年層では自殺容認傾向が高く、問題解決能力の未熟さが自殺容認傾向の背景にある可能性が示され、さらに自殺容認傾向が高い若年層では、情動的なストレスコーピングが強く、論理的なストレスコーピングが低いことが示されている<sup>2),3)</sup>。これらより、カウンセリングによってストレスコーピング能力を向上させることが若年者の自殺予防につながると考え、我々は、基盤研究C（研究課題番号：25380965）「若年者の自殺予防とストレスコーピング能力向上法の検討」として探索的レベルの比較対照研究を行った<sup>4)-6)</sup>。その結果、論理的なストレスコーピングである課題優先対処は対人関係カウンセリング（Interpersonal Counseling 以下 IPC）<sup>7),8)</sup>で増加し、通常のカウンセリングでは逆に減少する傾向が示された。また、IPC後には衝動性負荷時の前頭前野左側の酸素化ヘモグロビン（脳血流）が増加する事例も示された。そこで、本研究では、IPCの効果に関する追加解析および脳血流の変化をさらに検討した。

### 【研究成果】

1. 大学生の抑うつ状態は通常のカウンセリングを行った群（以下、TAU 群）では改善しなかったが、IPCを行った群（以下、IPC 群）では改善した。特に IPC 群では意思決定能力が改善することが示された。この結果は、下記学会でポスター発表を行った。  
The 7th Asia Pacific Regional conference of the International Association for Suicide Prevention, Tokyo Convention Hall, 2016年05月18日～2016年05月21日, The Effectiveness of Interpersonal Counseling for Depression in Japanese Undergraduates, Reiko Taketani, Emi Tsujimoto, Ami Yamamoto, Noa Tsujii, Osamu Shirakawa, Hisae Ono, 2016年5月20日発表
2. IPC 群と TAU 群では大学生の抑制制御に関する違いは認められなかったが、IPC 群は TAU 群に比べて前頭葉の活性化（脳血流の増加）が起りやすい可能性が示された。この結果は、下記学会でポスター発表を行った。  
The 7th Asia Pacific Regional conference of the International Association for Suicide Prevention, Tokyo Convention Hall, 2016年05月18日～2016年05月21日, The Effectiveness of Interpersonal Counseling for Impulsivity Response Inhibition in Japanese Undergraduates: A Near-Infrared Spectroscopy Study, Emi Tsujimoto, Ami Yamamoto, Reiko Taketani, Noa Tsujii, Osamu Shirakawa, Hisae Ono, 2016年5月20日発表
3. IPC 群と TAU 群において、大学生のストレス対処方法の変化には統計学的差異が示されなかった。この結果は、下記学会でポスター発表を行った。  
The 7th Asia Pacific Regional conference of the International Association for Suicide Prevention, Tokyo Convention Hall, 2016年05月18日～2016年05月21日, The Effectiveness of Interpersonal Counseling for Stress Coping in Japanese Undergraduates, Ami Yamamoto, Reiko Taketani, Emi Tsujimoto, Noa Tsujii, Osamu Shirakawa, Hisae Ono, 2016年5月20日発表

4. IPC 群と TAU 群による大学生の抑うつ状態および抑制機能の変化には統計学的な差異がみられなかったが、IPC 群では抑うつ状態が改善しやすく、前頭前皮質活動も TAU 群と異なる可能性が示唆された。さらに IPC 群で抑うつ状態が改善した者における抑制機能課題による前頭前皮質活動は賦活されにくい可能性が示された。この結果は、下記学会でポスター発表を行った。  
第 13 回日本うつ病学会総会、愛知県産業労働センター（ウインクあいち）（名古屋市）、2016 年 08 月 05 日～2016 年 08 月 06 日、大学生の抑うつ状態と抑制機能および前頭前皮質活動に対する対人関係カウンセリングの影響、辻本江美、山本亜実、竹谷怜子、辻井農亜、白川治、小野久江、2016 年 8 月 5 日発表
5. 大学生において、抑制機能課題賦活時の前頭部の脳血流量変化は、抑うつ状態が高いほど小さく、回避的なストレス対処方法を用いるものほど大きいことが示された。この結果は、下記学会でポスター発表を行った。  
第 38 回日本生物学的精神医学会・第 59 回日本神経化学会大会合同年会、福岡国際会議場（福岡市）、2016 年 09 月 08 日～2016 年 09 月 10 日、大学生における抑うつ状態およびストレス対処方法と脳機能の関連、山本亜実、辻本江美、竹谷怜子、辻井農亜、白川治、小野久江、2016 年 9 月 9 日発表
6. 短期的カウンセリング（計 3 回、1 回 50 分）では、IPC 群のみで抑うつ状態の改善がみられ、TAU 群では改善がみられなかった。この結果は、下記学会でポスター発表を行った。  
第 16 回日本認知療法学会、ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター（大阪市）、2016 年 11 月 23 日～2016 年 11 月 25 日、大学生の抑うつ状態に対する対人関係カウンセリングの効果、竹谷怜子、辻本江美、山本亜実、辻井農亜、白川治、小野久江、2016 年 11 月 24 日発表

また、2017 年 7 月 1 日現在、対人関係カウンセリングの症例報告論文“Effectiveness of Interpersonal Counseling for Modern Type Depression”を、*Case Report in Psychiatry* に投稿中（assigned number 9491348）、原著論文“Efficacy of Interpersonal Counseling for Subthreshold Depression and Stress Coping Strategies in Undergraduates: An Exploratory Randomized Controlled Trial”を *Journal of College Student Psychotherapy* に投稿中（WCSP-2017-0013）ある。

<参考文献>

- 1) 内閣府 平成 27 年版自殺対策白書 第 1 章、第 2 節 若年層の自殺をめぐる状況  
<http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/whitepaper/w-2015/pdf/honbun/index.html>（2015 年 10 月 1 日閲覧）
- 2) Tsujimoto E, Taketani R, Yano K, Ono H. Relationship between Depression, Suicidal Ideation, and Stress Coping Strategies in Japanese Undergraduates. *International Medical Journal*, 22:268-272, 2015.
- 3) Ono H, Tsujimoto E, Taketani R, Yano K, Miyoshi T. Suicidal Ideation and Stress-Coping in Young Japanese Adults. The 27th World Congress of the International Association for Suicide Prevention. 2013.09.25, Radisson Blu Plaza Oslo, Norway.
- 4) Tsujimoto E, Taketani R, Yano K, Ono H. A pilot study on interpersonal counseling for depression, suicidal ideation, and stress coping strategies in Japanese undergraduates. The 28th World Congress of the International Association for Suicide Prevention. 2015.06.16-20, Montréal, Québec, Canada.
- 5) 辻本江美、山本亜実、竹谷怜子、小野久江. 対人関係カウンセリングが有用であった学生相談の一事例. 第 12 回日本うつ病学会総会・第 15 回日本認知療法学会. 2015.07.17-18. 京王プラザホテル、東京.
- 6) 山本亜実、辻本江美、竹谷怜子、小野久江. 対人関係カウンセリングによる大学生の抑うつ状態の変化について. 第 12 回日本うつ病学会総会・第 15 回日本認知療法学会. 2015.07.17-18. 京王プラザホテル、東京.
- 7) Weissman M, Verdelli H: *Interpersonal Counseling (IPC) Manual*, New York, 2013. (unpublished manual)
- 8) 水島広子 対人関係カウンセリング (IPC) の進め方. 創元社、2011

本報告書は、データで [gakunai@kwansei.ac.jp](mailto:gakunai@kwansei.ac.jp) まで提出してください。